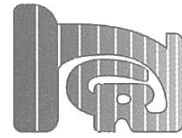


# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

今回は、前号でお知らせしましたとおり、東日本大震災における当院の第一次災害派遣医療チームの活動を、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、事務員それぞれの立場から報告させていただきます。

## 医師の立場から

### 被災地での診療を体験して…

副院長 藤田 芳郎



2011年3月11日金曜日に発生した東日本大震災の第一次災害派遣医療チームとして、4月6日から4月9日の期間、事務、作業療法士、薬剤師、看護師、医師の各1名ずつの編成で仙台市の七郷小学校、七郷中学校、若林体育館の3つの拠点を中心に活動してまいりました。4月6日時点では、仙台空港が壊滅状態で使用できず、山形空港経由で仙台市に到着いたしました。仙台市の昼間は、一見名古屋と変わらない普通の都市でありました。目的地のひとつの避難所である七郷中学から800mほどのところに仙台東部有料道路が高台を形成して南北に走っております。有料道路の下を直角に走っている道路を潜り抜けた途端、あっと息をのむような光景に出合いました。瓦礫の山という日本語がこの震災で頻繁に使用されておりますが、まさに一面瓦礫だらけの風景が広がっており、さらにつきすすむと4-5kmで海岸となりました。その途中の海岸から300mばかり手前の荒浜小学校の中は軽自動車などが詰まっており、3階以上が無事だった様子が外側から見て取れました。小学生は無事だったであろうかと心配でたまらなくなり聞きまわりましたが結局正確な情報は確認できませんでした。有料道路が防波堤となりそれを挟んで海岸と反対側にある避難所の七郷中学校は、津波に対しては無事でしたが、地震で校舎の半分以上が危険な状態であるとのことでした。避難所に寝泊まりしている方たちは瓦礫となった地域にすんでいらっしやう方たちでありました。

診察をしながらいろいろお話を伺いました。一人の腕利きの漁師さんのご夫婦のお話では、その瓦礫となった地域は伊達正宗が作った運河があるという歴史的にも古い地域であったそうです。高齢の漁師の父親をお持ちの娘さんは、父親の船が出てきたと親のために大変喜んでいらっしやうました。腹痛で受診された若い娘さんはご両親姉妹

を亡くされ天涯孤独になってしまったが何とか明るく生きていこうとすごしているとおっしゃってました。体育館で寝泊まりしている高齢のご婦人は数日間熱があつて本日解熱剤を欲しいと依頼がありました。寝ていらっしやうところへ行って診察しますと肺炎であることが分かりました。近くの病院に受診していただきました。こんな感じで3つの避難所を2日間診療させていただきました。5名の医療団が一生懸命働き医療はチームであるということをもますます強く感じました。

2日目に診療後の11時半ごろには、突然震度6の地震に襲われました。震度6とは初めての体験で、鉄筋の病院の天井も落ちてくるのではないかとこれで終わりかな、と一瞬心の中をよぎりました。

最後に、御苦勞の多い体験のお話を伺いながら診療をさせていただき感謝いたしますと同時に2日間でお会いした方々が今どうしていらっしやうかと思ひます。それぞれの方が無事に健康を取り戻されていらっしやうことを心から願わざるを得ません。と同時に震災がいつ自分の身に降りかかってきてもおかしくないという思いも強く感じました。そして今後の人類にとって原子力発電の問題が最大の問題のひとつであろうと思ひます。

2011年6月27日



診療ブース



## 看護師の立場から 東日本大震災における災害支援活動の報告

救急看護認定看護師 酒井 麻希子

この度、4月6日～4月9日、宮城県仙台市若林区において医療チーム5名(医師1名・看護師1名・薬剤師1名・作業療法士1名・事務員1名)で主に区内の七郷小学校、七郷中学校等で医療救護活動を行いました。震災から約1カ月が経過しており、急性期での医療活動は終わっていると考えられ、自分がどのように活動できるか考えながら向かいました。

仙台市に到着した当日に七郷中学校に向かう車の中からみた景色は、ところどころ瓦の屋根が崩れている所があるものの大きな倒壊がある様子は見受けられませんでした。しかし、七郷中学校から海の方に向かっていくと仙台東部有料道路を超えたところで景色は一変しました。まるで爆弾でも落とされたかのように一面がれきとなっています。これまでにテレビでこのような光景を見ていたのですが、目の前にするとあまりの悲惨さに言葉を失いました。小学校は3階の高さまで津波が押し寄せ、教室の中や体育館の中は津波で押し流された車やがれき、大きな防風林などがつまっている状態でした。信号機もなぎ倒され、鉄骨も折れ曲がっています。家は押し流され土台の部分しか残っていません。私たちは津波の猛威を突き付けられました。そして海岸まで来るとそこには穏やかな海が広がっていました。とてもこのような光景を作ってしまった海とは思いませんでした。

活動は主に避難所ごとの担当保健師からの

情報提供を受けて、避難所で診察をさせていただきました。避難所は仕切りがなくプライバシーが守られない状況での診察をしなければならないところもありました。私たちは、患者さんの家に上がらせていただくような気持で「おじゃまします」と毛布で仕切られたわずかなスペースに入らせていただき診察をさせていただきました。被災者の方は軽症の患者さんが多かったのですが、なかには発熱と解熱を4・5日間繰り返している患者さんもいたので、総合病院を受診していただき、肺炎のため入院となりました。また診察室を確保できた所では診察時に被災の時の様子や今感じていることなどをお話ししてもらいました。患者さんの思いに心を寄せるように傾聴することを中心に活動させていただきました。

実際の活動は、2日間と短いものでしたが医師・看護師・薬剤師・作業療法士・事務のそれぞれが役割を果たしチームワークよく協力して活動できました。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝します。



活動場所(七郷小学校)

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



## 薬剤師の立場から 薬剤師として医療チームへの参加を経験して…

今回私は、未曾有の大災害となった東日本大震災において、被災地医療チームの一員として、被災地の1つとなった宮城県仙台市での救援活動に参加しました。

我々が、派遣された仙台市若林地区は、津波により大きな被害を受けた地域でしたが、被災現場は、倒壊した家屋、押しつぶされた車の残骸が一面広がり、まさに爆弾が何発も投下されたような光景でした。テレビで見ていた以上に悲惨な状況に大きな衝撃を受けるとともに、多くのものを失い、避難生活というストレスの中で生活されている被災者の方々がみな協力し合い、冷静に対応されている姿に強い感銘を受けました。

医療チームは、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、事務員の5名で構成され、不十分な環境下でも、それぞれが存分な力を発揮できるよう一丸となって自分に課せられた仕事を行いました。薬剤師である私は、避難所に設置された仮診療所で、医師が処方する薬の調合や交付を主に行いました。仮診療所を訪れる方の多くは、疲労による体調不良、感冒症状、腰痛、復興作業中の怪我、また、避難所の塵やほこりによるアレルギー症状など、病状は非常に多岐にわたり、用意した数少ない種類の薬の中から診察を受けた方に最も合うものを選び、お渡しすることの大変さを強く感じました。また、被災者の方の中には、高血圧や糖尿病などの慢性疾患の薬を切らしてしまった方、薬の袋をなくして飲み方が判

薬剤部 主任薬剤師 中田 吉則

らない方もみえ、お話を伺いながら飲まれていた薬の内容や飲み方を調べ、薬を正しく服用してもらうためのお手伝いも行いました。

過酷な環境下にある被災地での活動は、肉体的、精神的にも非常に大変なものです。しかし、薬の専門家としてわずかながらも救援のお役に立てたことに大きなやりがいを感じています。

今回の震災では高血圧や糖尿病のような慢性疾患の薬を持たずに非難され、薬が飲めないために症状が悪化してしまった方も多くみえます。東海大地震がいつ発生しても不思議ではない今、避難用品の中に、自分が飲んでいる薬の内容がわかるもの(説明書)や数日分の薬(但し、定期的な入れ替えが必要です)を備えておくことも重要だと感じました。



押しつぶされた体育館

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。



## 作業療法士の立場から 災害支援活動に参加して

作業療法士 千賀 将

3月11日に発生いたしました東日本大震災において、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

私は3月11日地震があったとき、東京に移動しようと名古屋駅に向かっておりました。名古屋駅に着くと新幹線は運休していて何事かと待合室のテレビを見ていると次々に海岸線に押し寄せる津波の映像が流れていました。その信じられないような光景を目の当たりにし、被害の状況を伝える報道に胸を痛めました。そして今回当院から災害派遣にリハビリテーションスタッフが派遣されることを知り、参加を決意いたしました。

災害派遣は4月6日から4月9日まで行われ、避難所などの巡回は7日と8日に行われました。避難所では生活不活発病によって生活機能が低下する高齢者が出る恐れがあるといわれています。実際に巡回した避難所では高齢者もたくさん避難されていて、日中あまり活動せず横になっている方もたくさんいらっしゃいました。各避難所には、避難者の健康状態をチェックする保健師が配置されていました。リハビリテーションの支援は保健師からの依頼を受けて実施しました。生活不活発病の恐れのある高齢者の運動機能の評価、動作の確認及び指導、運動指導などを行いました。支援させていただいた高齢者の中には

地震の影響か心理的に運動をするような余裕のない方もおり、対象者の心理状態も確認しながらの支援となりました。

今後のリハビリテーションの支援の課題としては、(甲)保健師や地域の病院など各職種との連携を深めて避難者の生活不活発病を予防する、(乙)避難所でも安心してリハビリテーションを行える環境づくり、(丙)派遣されるスタッフが変更してもリハビリテーションが継続して行えるよう申し送りシステムを構築することなどが考えられます。

当院がある愛知県も東海地震の恐れがあると言われています。リハビリテーション科においても有事に備えてどのような行動をとるのか、シミュレーションをして備えていく姿勢が重要であると感じました。



震災の爪痕を目の当たりにして



## 事務員の立場から 東日本大震災 第一次災害派遣医療チームに参加して

医事課 入院係長兼連携係長 今関 信夫

平成23年3月11日の東日

本大震災は、みなさんご承知のとおり未曾有の大災害となりました。

中部ろうさい病院の派遣医療チームは、震災後1カ月が過ぎて、ガソリン、物資のインフラが急速に回復しつつある4月初旬の仙台市、若林区の派遣となりました。

医療チームは、医師1名、看護師1名、薬剤師1名、作業療法士1名、事務職員1名の5名編成での出勤となりました。すでに、各地のDMAT(災害派遣医療チーム)が災害初期の医療支援をおこない、避難所での生活が長期にわたるいわば、「災害急性期」から「災害維持期」といえる過渡期の派遣となり、複数避難所への巡回診療がメインとなりました。

診療内容も、慢性疾患があるが、かかりつけの医療機関へ受診できない方へのつなぎ医療や、避難所での急場の共同生活から発生する、皮膚疾患やアレルギー疾患、日中のがれきや損壊家屋の整理をした際の怪我、腰痛などが多くみられました。

当院の派遣時期を考え、医師は内科系医師、看護師は、救急外来のベテラン看護師を起用したことから、この過渡期の多種多様な診療に柔軟に対応することができたように思います。

また、当院の派遣チームから、新たに作業療法士をチームに加えたことから、避難所生活の高齢者の運動機能の低下予防や、腰痛等

の相談に対応することが可能となり、避難所では好評でした。着のみ着のまま避難所生活を続けている方が大半で、常備薬のほとんどを家屋とともに流されてしまい、各地の医療支援チームがそれぞれに臨時の投薬をしていることから、手元にある薬の整理がまったくされていないと、同じ効き目の薬を2、3種類もっている方もいて、薬剤師が必要な薬を整理する場面もありました。

医療支援活動は実質2日間でしたが、それぞれのチームメンバーがその専門知識をフルに活用して、「いま、ある物資で」「それぞれが協力して」医療にあたる、という医療機関のあるべき姿を再認識した2日間でした。

今回我々は、あくまで「ビジター」として被災地での活動を行いました。次は「ホーム」で我々が同様の災害に遭遇した際に、「何を」「どのように」するべきかを、地域のみならずと本気で考える必要性を強く感じました。



無残な信号機



災害活動を終えて



災害活動報告会

## ～～ 編集後記 ～～

今回の発刊によせて、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみ申し上げます。併せて被災されました皆さまにお見舞い申し上げます。

東南海地震が発生し、いつ同じような状況がご自身の身にふりかかってくるか分からない今、多くの皆さまが避難場所の確認・災害用避難グッズ等の準備をされたことと思います。今回の活動について院内で報告会を行い職員に周知し、災害時、地域の皆さまに安心していただけるよう当院は今後とも頑張っていきたいと思っております。(S.O)

## 当院の理念

皆さんとの出会いを大切に、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

## 当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

